

(一社)静岡県山岳・スポーツ  
クライミング連盟

〒420-8076  
静岡市駿河区八幡3-1-17  
TEL (FAX) 054-288-7512  
編集発行/総務委員会  
令和6年9月2日発行

第48号

岳連  
ニュース

# 宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

## 西穂高岳・独標に登る

### 令和6年度夏山登山教室

令和6年度の夏山登山教室が7月27日、28日、西穂高岳・独標(2710m)を山域として実施されました。参加者は講師2名を含め総勢9名。例年通り事前に座学2回と実技1回を安倍奥・山伏で行い、装備、読図、気象、歩行技術、安全対策等をマスターし独標へと向かった。

当日、帝国ホテルで写真を撮り、登山口で軽く体操を行い出発して木々を説明しながら、快調に登って行きました。急登に入り、しばらくすると2名が遅れてきました。参加者の中で温湿度計を持っていく方がいて、23度湿度70%以上指していました。しかし、それ以上蒸し暑く感じられ、汗が噴き出ていました。その2名にペースを合わせて、適宜水分補給して宝水まできました。その冷水でクールダウンして、無理なく分岐まで登る事ができました。そこからは夏の華麗な花々に迎えられ、無事山荘に着きました。その後はロー

プワークを行い、参加者全員、一生懸命取り組んでいました。二日目はまだうす暗い中を出発、ガスが少しかかっていきますので、意外と他の登山者は少なくてビツクリでした。丸山を過ぎて依然と小雨が降り続いていますが天気予報では回復してくるはずなので、とりあえず独標

### 登山教室に参加して

#### 村上淳一

7月27日の朝、登山教室のメンバーと共に沢渡駐車場に集合しました。天候は曇りで湿度が高く、汗が吹き出る中での登山となり、上高地登山口から約4時間かけて西穂山荘に到着しました。

樹林帯を進んでいる時、どこが尾根筋なのか分からず「はて？」と思うことがありました。その時、講師から「ここから見るとあちらに尾根筋が分かりますよ」と助言をいただきました。改めて景色を見つめなおすと、「なるほど！」と尾根筋が見え、座学で学んだ知識が

に向かいます。独標手前では風も強くなってきました。元気が様子なので、独標まで向かいました。なんとか無事登頂でき、濡れている岩場に気をつけながら、西穂高山荘まで下山しました。結局こまですつと雨でした。参加者から楽しかったと言う声が聴けて今回の夏山登山教室も無事に実施できて良かったと思います。(大林文洋)

実際の景色と結びつきました。登山中に講師が「ここで獣臭がします。分かりますか？」と教えてくれました。これまで臭いを感じても特に反応していなかった自分にとってこの言葉は貴重でした。最近鹿や熊が人里でも目撃される事が多く、登山道で臭う獣臭は危険察知につながるんだと学びました。このような自然のサインに敏感になることへの重要性を実感しました。

2日目の朝は、雨・風・霧の思いがけない悪天候での出発となりました。私自身は登山中止でも良いのではないかと思える天候でしたが、歩き出してみると意外にも体力的には適度で、気持ちの良い山歩きとなりました。そして、ついに西穂高岳独標の頂上に到達しました。写真などで雄大な景色や迫力のある岩場を想像していましたが、霧のためほとんど景色が見えず、少し残念でした。しかし、一瞬ではありましたがガスが途切れ、迫力ある山容を垣間見ることができました。頂上でみんなと共に記念写真を撮り、その瞬間を共有できたことは一生の宝物です。

無事に下山しました。高度を下げるにつれて天気は回復し、登山口では気持ちの良い天気が出ていました。下山後はウェストン碑や河童橋を散策し、上高地の素晴らしい景色を堪能しました。小梨平キャンプ場の食堂で昼食をとり、せせらぎの湯で汗と疲れを流し、リフレッシュし無事に帰宅しました。

この夏山教室を通じて、多くのことを学び、貴重な経験を積むことができました。特に講師の方々の指導とサポートには感謝の気持ちでいっぱいです。これからも登山を続け、さらに多くの山を楽しみたいと思います。機会があれば、西穂高岳まで挑戦できないかと妄想する次第です。

山伏や西穂高岳独標の実技登山中に、「この人たち大丈夫か？」と思えるようなパーティイに出くわすことがあります。その際、講師の方々がそのようなパーティイに声掛けをしている姿が非常に印象的でした。登山者の安全を常に考えている講師の方々の姿に、頭が下がる思いでした。



山頂



# 少年女子国スポ出場決まる 第45回東海ブロック大会優勝

国民スポーツ大会、スポーツクライミング競技・第45回東海ブロック大会は、7月13日、14日に静岡県県のスクエアクライミングセンター(リード)および愛知県のカクタス2(ボルダー)で行われた。

今年から国民体育大会は、国民スポーツ大会と名称が変更された。又、大会参加のルールが変更され、従来、ブロック大会無しで成年男子が本大会に出場していたが、本年度からは、各ブロック1種別(本年度は少年男子)がブロック大会無しで各県本大会に出場し、



表彰選手



成男リード

あとの3種別(成年男子1、成年女子2、少年女子1)の代表枠を争う形となった。また、今回は、成年女子のエントリーがあり、久しぶりのフルエントリーで大会に臨めたのは嬉しいことです。

初日のリードは、成年男子がメイン壁の左側を登るルートで、レストの難しいストレニアスなルートで、鈴木が、最大傾斜を越え、スローパーまで池田はルーフ下のトラバースでフォールし全体の個人6位(総合2位)と健闘した。少年女子は、6

番壁からルーフ下をトラバースし、メイン壁の右側にぬけるルートで、永嶋(個人3位)、狩野(個人4位)とも、終了点に迫る登りを見せたが、三重、愛知の各1名が、1位、2位となり、総合3位のスタートとなった。成年女子は、ルーフ下のトラバースでフォールし、本多(個人5位)、匂坂(個人6位)で総合3位となった。

翌日のボルダーはカクタス2に移動し、少年女子からスタートし、永嶋と狩野は4課題のうち、スラブの第一課題を除いた3課題を完登し、トライン数で永嶋が個人1位、狩野が個人2位タイとなり、ボルダーは1位の逆転で、総合1位と代表権を勝ち取った。続く、成年女子も時間をいっぱいに使ってよく健闘し、匂坂が2完登、本多が1完登を果たし、総合3位となった。

最後の成年男子の課題は、各県ともボルダーの実力者がそろったため、課題が非常に厳しく、池田、鈴木とも完登は果たせず、総合4位となった。

少年女子および少年男子は10月に佐賀県で行われる本大会での活躍に期待したい。また、成年種別においても、来年度に向けて期待の持てる結果であったと感じた。

・成年女子 匂坂みほ 本多冬実 (リード3位) 総合3位  
・少年女子 永嶋美智華 狩野 風 (リード3位) 総合1位  
・本大会出場 (諸戸 明)

## ありがとうを強さに変えて 北部九州総体2024 第8位 富士(女子団体) 第16位

「ありがとうを強さに変えて 北部九州総体2024」の大会愛称と、「駆け上られ 夢の舞台へ 燃え上れ 若人の魂」の大会スローガンのもと、令和6年度全国高等学校総合体育大会 第68回全国高等学校登山大会が福岡県

耶馬日田英彦山国定公園の一部をなす英彦山を中心とする山域で8月2日(6日)にかけて行われた。本県からは、昨年度本大会で優勝を果たした富士(女子)と、昨年、初出場第3位と健闘した沼津東(男子)が出場した。大会2日目、男子は「中岳コース」、女子は「南岳コース」。大会3日目、男子は「南岳コース」、女子は「中岳コース」。大会4日目は男子女子ともに「岳滅鬼コース」を使用し審査が行われた。連日の猛暑で体調を崩す選手が多数おり、女子ではコースの短縮、男子ではメインザックでの行動



開会式沼津東



開会式富士

から、サブザック行動に変更するなどの対応がとられた。

8月6日に閉会式が行われ、入賞チーム男子団体、女子団体それぞれ6位までが発表された。

沼津東は男子団体で98.4点を獲得し第8位、富士は女子団体で97.2点を獲得し第16位という結果であった。(鈴木重幸)

男子団体	1位	旭川東(北海道)	99.2
	2位	松山南(愛媛)	99
	3位	秋田(秋田)	99
	4位	広島学院(広島)	99
	5位	長崎北陽台(長崎)	98.9
	6位	高松(香川)	98.6
女子団体	1位	長崎北陽台(長崎)	99.9
	2位	旭川東(北海道)	98.9
	3位	盛岡第一(岩手)	98.8
	4位	修猷館(福岡)	98.7
	5位	ノートルダム清心(広島)	98.6
	6位	防府(山口)	98.6



# 山岳レスキュー講習会 山岳遭難の救助技術を学ぶ(座学・実技)

令和6年度山岳レスキュー講習会が、6月15日静岡県男女共同参画センター「あざれあ」において開催された。滝田事務局長の挨拶の後、午前中は座学が行われた。



山のリスクマネジメントと事故発生から救助まで(小林講師)山岳遭難の発生件数や遭難状況の傾向を分析。山岳遭難には他のスポーツと異なり、自然を相手にする登山の特殊性がある。登山計画書は遭難したときに威力を発揮するので、必ず提出すること。アクシデントが発生し行動不能に陥ったとき、どう対処

するか。仲間から遭難したと山岳会に連絡が入った場合の留守番役の対応などは普段から考えておく必要がある。

「ファーストエイド(仲間の命を守る) (大石講師)ファーストエイド

の目的は、症状を悪化させずに医療機関につなげること。応急手当の基本

(バイタルサイン・寝かせ方・固定法・止血法)

や環境の変化による障害(低体温症・熱中症・高山病・落雷・有害虫)への

対処の仕方を学んだ。各人が手当方法を身につけることにより、迅速な

対応が可能になる。自分の身に降りかかるか

分らないので、できることから身につけるように

したい。

午後には、「登山における法律」(工藤講師)登山のリーダーは安全に配慮する責任があり、場合

によっては法的責任が生じることがある。山岳遭

難セイフティカードとピンチカードは持っている



と便利だ。

続いて、「レスキュー講習」ロープやカラビナ

などの用具解説(浅原講師)を受けてから、机と

イスを片付け実技講習に移った。講師(工藤・石

原・高野・浅原)とサポーター(内海・大石・小林

## 静岡県勢 今年も男女ともに優勝!

優勝富士(男子)・静岡(女子)  
準優勝静岡(男子) 4位富士宮西(女子)

令和6年6月14日(金)

16日(日)、第71回東海高等学校総合体育大会が

愛知県新城市で実施された。今年度は、愛知県新

城市にある宇連山を会場に、東海3県から男女計

12チームが参加した。静岡県からは、男子は富士

大友)のもと、初級コース26名(3班)、中級コース7名(1班)に分かれた。簡易ハーネス(シートメント)作り、ロープの結び方、簡易確保・支

点の構築、補助ロープの活用(悪場の通過)、懸垂下降、搬送法などを実習した。参加者は閉会時間ギリギリまで熱心に取り組んだ。一度練習した

だけではなかなか身につかないので、非常時に対応できるように繰り返し練習しておきたい。

参加者は加盟団体から18名、個人会員5名、一般参加10名、講師8名、

県岳連2名の計43名。(大石幸男)

静岡、女子は静岡、富士宮西の4チームが出場した。

大会初日は、筆記試験、天気図、設営、炊事の審査が行われた。登山行動

は大会2日目からで、2日目のコースは愛知県民

の森の宿泊施設モリトピ



大会2日目スタート時

アから、南尾根を登っていき、宇連山を登頂しつつ、周回するコース。晴

れ間の見える天候の中、登り始め、尾根上を歩く

ころには強い日射に体力を奪われる天気となった。

途中には岩場も多数存在するが、よく整備されていた。3日目は東尾根を

周遊するコース。雨の中のスタートだったものの、

ゴール時には雨も上がり、パーティ行動となり監督

と楽しく歩くチームが多数見られた。

大会2日目は講演会が行われ、設楽原歴史資料

館館長の湯浅様を迎えて、長篠の戦を中心にお話を

伺うことができ、様々な角度で歴史を紐解く面白

さを知ることができた。感染症拡大防止のため中止されていた交流会も再開することができた。各

チームの選手たちが学校の紹介や出し物をして、周りの選手たちもリアクションよく盛り上げていた。

愛知県高体連の先生方を中心に対会の準備・運営にご尽力いただいた先生方のおかげで、大きな

トラブルもなく大会を終えることができた。



大会3日目スタート時

静岡県勢の結果は、男子は富士が優勝、静岡が2位。女子は静岡が優勝

富士宮西が4位であった。静岡県勢の強さが際立った大会であった。

(鈴木重幸)



# 南アルプス夏山開きと安全祈願祭

南アルプスの登山口となる静岡市葵区田代の畑薙ダムサイトで、夏山シーズンの幕開けを告げる「夏山開き」と「安全祈願祭」が井川観光協会と井川山岳会の主催で7月16日開催された。

前夜から雨で当日もあいにくの雨空となったが、警察や消防、静岡市、県岳連・市岳連、地元関係者など約60名が出席、同ダムえん堤脇にある遭難者慰霊碑に手を合わせ、シーズン中の登山者の無事故を願った。県警によると、2023年は13件



の遭難事故が発生し、1人が死亡、6人がけがをしている。

南アルプスは今年、ユネスコ(国連教育科学文化機構)のエコパーク登録10周年を迎えた。井川山岳会の長島吉治会長は「自然を守るのは、1人1人の心がけが大切、山に対して畏敬の念を持ち、事故なく登山を楽しんでほしい」と話した。

(滝田 博之)

## 第1回理事会

日時 令和6年6月24日(月) 18時30分〜20時  
会場 静岡県男女共同参画センター あざれあ5F 第五会議室  
出席者 理事18名中15名  
監事2名中2名  
理事 木ノ内高嘉、鈴木重幸、内海廣治、滝田博之、堀内修、篠崎勇、大石幸男、出利葉義次、鈴木雅春、中川清、加藤敏美、小林玲子、岩田幸裕、諸戸明、工藤(小林の代

理) 前川朝夫、望月保男  
挨拶 木ノ内会長  
定時総会が無事終了。予定されている登山教室は安全に留意して実施してほしい。昨日、日山協

総会があり、丸会長が辞任し、蛭田氏(千葉県)が新会長に選任された。

### (1)各委員会報告

○指導・遭難対策委員会  
山岳レスキュー講習会を6月15日に実施した。一般10人を含む43名が参加した。リスクマネジメント、ファーストエイド、ロープレスキュー初級・中級など。実技指導員がプラス1名され若返った。

・JMSCA全国指導委員長会議(6月1、2日)があり、R5年度事業報告とR6年度事業計画を行う。公認山岳コーチの検定基準等を見直した。

### ○競技委員会

・スポーツクライミングは今年から名称が国民体育大会から国民スポーツ大会と改称となった。ルールも変更となり、今年は少年男子は県予選会で選抜されれば、ブロック予選なしで国スポに参加で

きる。東海ブロックには成年男子・成年女子・少年女子の3チームが参加することとなり、フルエントリーとなった。

### ○国際委員会

・6月15、16日に国際委員会が開かれ、事業報告があった。財政的に苦境にある。来年、静岡開催の打診があった。

### (2)事業計画

○指導・遭難対策委員会  
JMSCA国遭難対策協議委員長会議を6月29、30日に開催、参加予定。

・全国山岳遭難対策協議会を7月12日開催、文科省講堂にて。Web参加も可。

・夏山教室を7月27、28日に唐松岳で実施予定。座学1が終わり、6月30日に山伏で実技1を、7月17日座学2を行う。

### ○競技委員会

・7月13、14日にスポーツクライミング東海ブロック大会を開催予定。会場はリード競技が浜松市のスクエアクライミングセ

ンター、ボルダー競技が豊橋市のCACTUS2。クライミングジムGRIMから7月7日に大会を行う、県岳連の名前を出させてほしいと依頼があった。(JMSCAの事業にもかかわらず、連盟には正式な連絡も資料送付も無い。正式文書を要求する)

(3)会長報告・連絡(JMSCA総会など)  
・JMSCAの巨額赤字決算問題は基金2千7百万円と個人献金で補填し、年度末の財務超過を免れた。赤字原因はW杯予算が抜けていて、通常より5千万円膨らんだためという。善管注意義務違反の理事6名の責任は解決金支払という形で決着した。

・基金については、現在JMSCAの目標5千万円に届かず、6月以降2次募集を行う予定。

・東海4県正副会長理事長会議を7月13日、東海ブロック大会に合わせて、豊橋市で開催の予定。

(4)その他  
・県岳連カレンダーについて(滝田)  
「世界の名峰」と「山の四季」の見積と収益予想

を説明。「名峰」を推す意見が数件あり「世界の名峰」に決定した。  
・スポーツフェスティバル登山大会について(滝田)

スポーツフェスティバル登山大会とスポーツフェスティバルクライミング大会を隔年で実施したらどうかの提案があった。背景に登山大会選定場所の苦慮、スポーツクライミングの普及がある。クライミングの負担が増す、対応可能か。

登山大会の開催順序は東部ブロック↓中部ブロック↓大井川ブロック↓西部ブロック↓富士ブロック↓中部ブロック↓の順。

・「宝永」原稿用に各山岳会の話題、登山記録があれば提供をお願いしたい(会長)

(中川 清)

